

マルティネルの街角で

YKI 国際特許事務所 弁理士◇葦原 エミ

Vol. 9 支配人を出せ、支配人をっ！

旅は戦いの連続である。

ある国際会議に参加するため訪れたサンフランシスコの某有名ホテル。空港に着くまでは順調、ホテルまでもほぼ予定どおり。チェック・インして、着替えて、1時間後のアポに備える「だけ」。だった……。が！

「お客さま、お部屋がございません」

「はっ？ ちゃんと3カ月前に予約しましたけど？」

「はい！ ご予約はいただいておりますが(にっこり)、

本日はお部屋がないので別のホテルを手配してあります。明日はお部屋がございますので当ホテルにお泊まりください」

待てコラ、ふざけんじゃねえ！

今日もアポがあって、ディナー・ミーティングがあって、明日も朝イチで朝食ミーティングだ。ホテルを移動してる時間なんてあるかいっ！！

怒り心頭、とっさに出てきた「ワンポイント英会話」。

“I can't accept it! Let me talk to the manager!”

日本人女性に反論されたことがないんだね、うろたえまくるホテルマン。

「し、しばらくお待ちください(カタカタ、コンピュータのキーをたたく)。。。あぁっ、お部屋がございましたっ！」

どうやら、複数の国際会議が重なったせいでダブルブッキング状態らしい。見れば、日本人だけが同じ被害に遭っている！ すすぐと別のホテルに移ろうとしている人を引き止め、「だめえ～！ ゴネれば部屋は出てきます！」。おそらく支払い金額よりもワンランク上のお部屋が……。

こんなことは旅先では日常茶飯事だ。

日本の「お・も・て・な・し」に慣れていたら、アンビリバーボーなことは至る所で体験できる。

パリの某有名ホテル。到着は早朝6時ごろ。その日は8時から朝食ミーティングだったので、さっさとチェック・イン。で、部屋で着替えている最中にふと思い出した。

「あれ？ 日本から送った荷物が届いてるはずだけど？」

ここが日本だったら、チェック・インの段階で「お待ちしております。お荷物が届いております。お部屋にお持ちいたしますか？」となっていたはず。慌ててレセプションに戻り、「荷物、届いてませんか？」と聞いた。すると……、

「おお、マダム、それは私の仕事ではありません。コンシェルジュに聞いてください」

……さすが、おフランス。。。コンシェルジュに確認すると、

「はい、届いております。後でお部屋にお届けします」って、おい！

そんなに大きな物じゃないんだから、この場でくれよ！

こんな感じなので、旅先では毎回、誓いを立てる。「1日に1度は戦う。そして、勝つ！」と。

たいてい勝つ！ が、言葉の壁によって負けることもある。

予約したディナーの店は、Google マップによるとホテルから“徒歩”10分。でも、あまりに土地勘がないし、遅刻はしたくないし、念のためタクシーを拾う。で。。。走る30分、まだ着かない！

焦る同僚、地図と住所を見せ、

「この住所ですよ、間違っていない？ あと、どのくらい？」。

ただうなづくタクシー・ドライバー。日本語の看板が目に入る。「スナックさゆり」？ 何だか怪しげな通りに……。ドキドキ、ドキドキ。。。で、着いた！ 私たち、一体どこを走っていたのやら。

実は英語が全く通じていなかったであろうタクシー・ドライバーの、とっても優しいほほ笑みが忘れられないベトナムの夜でした、とさ。



※ 撮影協力：デリリウムカフェーキョー（霞が関）